

項目	内容
名称	ダイダイ、ビターオレンジ [英]Bitter orange、Sour orange、Seville orange [学名]Citrus aurantium L.
概要	<p>ダイダイは、インド、ヒマラヤ地方原産の常緑小高木で、日本へは中国から渡来した。皮、果実とも古くから薬用植物として用いられてきた。薬用部分は果皮（橙皮&lt;トウヒ&gt;）、未熟果実（枳実&lt;キジツ&gt;、枳殻&lt;キコク&gt;）である。花や果皮には精油が多く含まれ、アロマテラピーなど、さまざまな用途に使用されている。ダイダイの中国語名は「代代花枳殻」である。ただし、ダイダイの未熟果実は「枳実」と称する。</p>
法規・制度	<p>■ <b>食薬区分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダイダイ（キジツ/キコク/トウヒ/Citrusaurantium）果実、果皮、蕾、花：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」に該当する。</li> </ul> <p>■ <b>日本薬局方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キジツ、トウヒが収載されている。</li> </ul> <p>■ <b>食品添加物</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダイダイ抽出物：苦味料</li> </ul>

## ■ 海外情報

- ・米国では、GRASに該当する。

## 成分の特性・品質

### 主な成分・性質

・皮と果実にシネフリン (synephrine) を含む。未熟果実にはd-リモネン (limonene) などの精油成分、ヘスペリジン (hesperidin)、ネオヘスペリジン (neohesperidin)、ナリンジン (naringin) などのフラボノイド配糖体を含む。成熟果皮にはd-リモネン(limonene)、ヘスペリジン、リモニン (limonin)、クマリン類 (ウンベリフェロン) などを含む。果汁にはクエン酸などの有機酸、カルシウム、カリウムなどの無機塩、グリココールベタイン、ビタミンC、ペクチン (pectin) など。また果実にuraptene、marmin、tangeretin、nobiretin、psoralenなど。皮に含まれるfurocoumarin類 (bergamottin、dihydroxybergamottin) は薬物代謝酵素チトクローム (Cytochrome) P450 (CYP3A4) を阻害する。

### 分析法

-

## 有効性

### 循環器・呼吸器

調べた文献の中に見当たらない。

### 消化系・肝臓

調べた文献の中に見当たらない。

### 糖尿病・内分泌

調べた文献の中に見当たらない。

### 生殖・泌尿器

調べた文献の中に見当たらない。

### ヒトでの評価

### 脳・神経・感覚器

調べた文献の中に見当たらない。

### 免疫・がん・炎症

調べた文献の中に見当たらない。

### 骨・筋肉

調べた文献の中に見当たらない。

### 発育・成長

調べた文献の中に見当たらない。

### 肥満

#### RCT

・身体を動かすことの少ない体脂肪率20%以上の男性10名を対象とした二重盲検並行試験において、ビターオレンジ、緑茶、ガラナの抽出物を含む調剤500 mg (シネフリン6 mg、カフェイン150 mg、カテキン150 mgを含む) の単回摂取は、安静時および運動時のいずれにおいてもATP利用能に影響は認められなかった ([PMID:16418760](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/16418760/))。

### その他

調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳  
(23) 天然食品・薬品・化粧品的事典 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳  
(24) 漢方薬理学 南山堂 高木敬次郎ら 監修  
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)  
(58) The Complete German Commission E Monographs  
(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS).  
[\(PMID:16418760\) Int J Obes \(Lond\). 2006 May;30\(5\):764-73.](#)  
[\(PMID:17165643\) Mayo Clin Proc. 2006 Dec;81\(12\):1630-1.](#)  
[\(PMID:17157086\) Dig Liver Dis. 2007 Oct;39\(10\):953-5.](#)  
(101) Fitoterapia. 1999;70(6):586-92.  
[\(PMID:16317106\) Ann Pharmacother. 2006 Jan;40\(1\):53-7](#)  
[\(PMID:16164886\) Am J Med. 2005 Sep;118\(9\):998-1003](#)  
[\(PMID:15026566\) Ann Pharmacother. 2004 May;38\(5\):812-6](#)  
[\(PMID:15830849\) Phytomedicine. 2005 Mar;12\(3\):247-8.](#)  
[\(PMID:16227131\) J Adolesc Health. 2005 Nov;37\(5\):414-5.](#)  
[\(PMID:18571300\) Food Chem Toxicol. 2008 Aug;46\(8\):2770-5](#)  
[\(PMID:7475952\) Life Sci. 1995;57\(22\):2011-20](#)  
[\(PMID:19151465\) Indian Heart J. 2007 Nov-Dec;59\(6\):494-6.](#)  
[\(PMID:22940371\) Clin Ther. 2012 Oct;34\(10\):2161-73.](#)  
[\(PMID:24512406\) Tex Heart Inst J. 2014 Feb;41\(1\):70-2.](#)  
[\(PMID:23886819\) Food Chem Toxicol. 2013 Oct;60:153-9.](#)  
[\(PMID:26281312\) Turk J Med Sci. 2015;45\(3\):496-506.](#)  
[\(PMID:26242500\) Therapie. 2015 Nov-Dec;70\(6\):555-6.](#)